



目 次

平成26年度定期総会開催案内及び会場交通案内	1
支部長ごあいさつ	(60、S48年卒) 中西 憲幸 2
総会での話題提供①「尿酸代謝と痛風・高尿酸血症」	(84、H9年卒) 木村 徹 3
総会での話題提供②「50を過ぎて博士になってみた」	(73、S61年卒) 阿部 浩之 3
eラーニングによる薬剤師生涯研修	(57、S45年卒) 伊藤 要一 4
小泉保先生瑞宝中綬章受賞記念祝賀会	(72、S60年卒) 畑中 朋美 5
故塚田欣司教授（富山大学和漢薬研究所名誉教授、 東京医科歯科大学名誉教授）の思い出	(68、S56年卒) 益見 厚子 6
	(57、S45年卒) 伊藤 要一 7
	(57、S45年卒) 林 昌美 7
坂東生誕45周年にあたり	(78、H3年卒) 坂東 裕志 7
おっばいの話	(83、H8年卒) 東 美恵 8
祝・100回卒	(100、H25年卒) 大野 琢也 9
ゴルフクラブ便り	(55、S43年卒) 柿崎 直和 10
平成25年度首都圏支部活動報告・支部役員	13
平成25年度会計報告、平成26年度予算（案）	14
平成25年度 支部年会費納入者一覧	15
事務局移管のお知らせ	17
編集後記	18
平成25年度首都圏支部総会集合写真	19

総会会場が変更になりました

平成26年度「薬窓会首都圏支部総会」のご案内

日 時：平成26年6月28日（土） 14時00分～18時30分（開場：13時30分）

場 所：総会「ビジョンセンター日本橋」地下鉄銀座線・半蔵門線 三越前

A6出口徒歩1分、コレド室町3ビル隣

住所：東京都中央区日本橋室町1-5-3 福島ビル5階

TEL：03-6225-2693

懇親会「CALENDAR」：場所は同じビルの9階です。

会 費：男性：8,000円、女性：6,000円（ご夫妻で出席の場合13,000円）

平成12年3月～平成21年3月の卒業生：5,000円（男女とも）

卒業後5年まで（平成22年3月～26年3月）：無料

話題提供 ① 木村 徹氏（84回卒）「尿酸代謝と痛風・高尿酸血症」

② 阿部 浩之氏（73回卒）「50歳を過ぎて博士になったこと」

- * 会場が昨年と異なっていますので、よくお確かめください。
- * 同期の方々をお誘いいただき、多くの方のご参加お待ちしております。
- * 総会に出席された方には、薬剤師研修シール（1点）をお渡ししますので、希望される方は受付まで申し出てください。





午年に想う

富山薬窓会首都圏支部長（㊦、S48年卒） 中西 憲 幸

今年の干支は午ですが、馬とは書きません。午は真ん中という意味で12干支のなかで7番目、真ん中と言う意味でこの字が当てられました。24時間制の真ん中が正午（12時）で、その前が午前で、その後が午後となります。還暦を過ぎててもまだまだ知らないことが多くあります。

2月の二回の大雪には驚かされました。1回目は天気予報の最大の雪が降り、準備していたので驚きませんでした。2回目は夜には雪が雨に変わるとの予報だったので、高をくくり食事に出かけました。しかし、予報が外れ大雪になり、危うく帰宅難民になりかけました。都市部は大雪に弱いことを実感しました。また、東京では一度雪が積もると、二度積もる確率が80%以上であることも実証されました。

今年は診療報酬改定の年ですが、調剤薬局は医療提供施設として、24時間体制や在宅への積極的な関与が求められるようになりました。また、ジェネリックの推進にはさらに高い目標が掲げられました。調剤薬局の真価が問われる年になりそうです。

一方、病棟での薬剤師の業務に診療報酬がついて2年経過しましたが、勤務医からは薬剤師のお陰で薬に関する業務の負担が軽減されたとの声を聞くようになりました。病棟薬剤師業務とは入院時の持参薬の確認及び服薬計画の提案、薬物相互作用の確認、ハイリスク薬の詳細な説明などがあります。施設基準は病棟ごとに専任の薬剤師を配し、薬剤師に十分な時間を確保できる体制が必要です。

昨年の首都圏遠久朶に五十嵐俊二（46回卒）さんが「故郷の山々」と題して投稿され、総会で富山の山々を描いた絵画を投影し、話題を提供して頂きましたが、10月10日に急逝されました。合掌。

毎年総会と幹事会を開催していた茗溪会館が突然3月末で閉館すると連絡がありました。既に郵送した2月の総会案内にも会場名を連絡済なので困りました。急遽、都心の別の会場を確保し、総会予算の範囲内で開催できそうなので、一安心しています。

予算は厳しい状況が続いていましたが、年会費を1,000円から1,000円以上に変更したところ、支払者の人数は少し減ったにも関わらず、会費総額は増えました。また遠久朶の印刷を安い印刷会社に変え、袋詰め作業をみんなで行ったところ、費用は少なくなり、預金の取り崩しは大幅に改善されました。とはいえ、まだ赤字の運営が続いていますので同窓会の運営にご協力ください。

尿酸代謝と痛風・高尿酸血症

(㉔、H9年卒) 木村 徹

私はこれまで輸送体の機能やその異常によって生ずる疾患に関して研究を行ってきました。学生時代は消化性潰瘍治療薬（プロトンポンプ阻害薬）の作用点である胃プロトンポンプ、ポストク時代は強心薬ジギタリス製剤の作用点であるナトリウムポンプが研究対象でした。現在は杏林大学医学部薬理学教室にて、発生や癌に関係するアミノ酸トランスポーターおよび生体内代謝物や薬剤の排泄に関わる有機酸トランスポーターの研究を行っています。今回の話題提供では、尿酸トランスポーターと尿酸代謝、痛風に関するお話をしたいと思います。

尿酸はヒトにおけるプリン体の最終代謝産物です。高尿酸血症・痛風はヒトおよび近縁の類人猿に特異的な病気であり、マウスやラットなどの多くの哺乳動物は痛風にかかりません。これは、ほとんどの動物が尿酸をさらに水溶性が高いアラントインに代謝できるからです。ヒトではこの尿酸代謝酵素（ウリカーゼ）を遺伝的に欠損しているため、難溶性の尿酸が最終代謝産物となります。プリン塩基（アデニン、グアニン）に由来するプリンや飲食物として摂取したプリン体はキサンチンオキシダーゼの働きによって尿酸に変換されます。生成した尿酸は約70%が腎臓から、残り約30%が消化管から排泄されます。血中尿酸値は尿酸の合成と排泄のバランスによって決定されるため、尿酸の合成促進または排泄低下によって高尿酸血症を発症します。尿酸の血中濃度が高度になり、血清レベルが溶解度の上限を超えると、尿酸ナトリウムの結晶が軟組織や関節で形成されます。この溶解度の上限が約7.0mg/dLであり、7.0mg/dL以上の値は異常で高尿酸血症と呼ばれます。さらに尿酸沈着物への免疫・炎症反応は痛風性関

節炎を引き起こし、これが痛風の激しい痛みにつながります。現在よく用いられている尿酸降下薬（慢性痛風治療薬）は、尿酸の生成を抑制するキサンチンオキシダーゼ阻害薬または尿酸の排泄を促進する尿酸トランスポーター阻害薬になります。

尿酸には組織沈着と血管への作用があり、痛風をはじめとして高血圧、心血管疾患、腎不全、結石、メタボリックシンドロームなど様々な疾患との関連が示されています。このように尿酸には負のイメージが強いですが、尿酸には強い抗酸化作用があり、オキシダントに対するスカベンジャー作用、有害なスーパーオキシドからの組織保護作用、神経変性疾患における組織保護作用などを有すると報告されています。高尿酸血症とは逆に血清尿酸値が低い病態もあり、1.5mg/dL以下を低尿酸血症と呼びます。腎性低尿酸血症の患者に運動後の急性腎不全が見られることが多く報告されており、これは尿酸の正の作用としての抗酸化作用が関与していると考えられています。この腎性低尿酸血症のほとんどは尿酸トランスポーターの異常によって起こります。

総会では、尿酸トランスポーターによる尿酸値調節機構、尿酸降下薬のターゲットを中心にお話ししたいと思います。

(杏林大学医学部薬理学)

話題提供②

50を過ぎて博士になってみた

(㉕、S61年卒) 阿部 浩之

「末は博士か大臣か」と言われたのは、遠い昔のことである。現在、日本には総理大臣を含め19人の大臣がいるが、博士は毎年、7千人ほどが輩出されている。大臣に匹敵するような地位や名誉は、現在では到底望めるはずはない。それどころか、「高学歴ワーキングプア」といわれている実情がある。職なし・

非正規博士は10万人もいるとのことだ。

そんな状態にありながら、私は、48歳で大学院博士課程に入学し、昨年、51歳にして無事、博士号を取得した。3年間の必要年限を務め上げたコースドクターである。以前は論文博士も博士号取得の一般的な手段であったが、昨今、大学院に在籍せず、論文だけで博士号が取得できる大学は縮小傾向にある。

以前は、博士号と言えは「〇〇学博士」と標記されたが、1991年に学位規則が改訂され、括弧つきで専門分野を博士の名称の後ろに付記することとなった。また、専攻分野の名称は大学により定められるとされているため、現在では様々な名称が用いられている。旧・富山大学ご出身の諸先輩方は「薬学博士」であろうが、私は「博士(薬科学)」と標記することになっている。さらには、学位規則により、学位を表記する際には専攻分野に加え授与機関名を付記しなければならないことと定められているため、正式には「博士(薬科学)(武蔵野大学)」と記載しなければならない。しかしながら、これまで、自分の名刺を含め、新制度の規定に基づいて授与機関を標記している名刺は見たことがない。

極めて特殊な例ではあったが、働きながら博士号をいかに取得するか、そのメリットとデメリット。また、研究者以外で薬剤師として博士号は役に立つのか。短い間ではあったが、アカデミアの外部の人間が、学部生以外の立場、社会人としての立場として大学で暮らしてみた経験をご紹介したい。

折しも、薬学部が4年制と6年制になることにより、大学院の課程も二つに分かれ、複雑になった。6年制の薬学部を卒業しても修士号は取得できず、学士であるし。また、4年制の卒業生には、今は暫定措置があるものの、薬剤師の国家試験の受験資格は与えられない。薬学部進学を考えているご子女をお持ちの諸先輩、同輩・後輩の参考にもなれば幸いである。

eラーニングによる 薬剤師生涯研修

(67、S45年卒) 伊藤 要一

製薬会社を定年退職後、請われて入社した化学分析会社で3年近く経った時、特定非営利活動法人医療教育研究所から是非力になって欲しいと依頼され、それに応えて今日に至っています。

医療教育研究所は公益財団法人日本薬剤師研修センターからインターネット研修実施機関として認証され、eラーニング薬剤師生涯研修講座を会員薬剤師に配信しています。一定期間内に所定の単位を取得すれば、研修認定薬剤師の認定証が交付されます。現在、医療教育研究所の会員薬剤師数は延べ25,000人、理事長の遠藤浩良帝京大学名誉教授は故木村正康富山大学名誉教授と大学の同期です。

受講者にとって、eラーニングの最大の魅力は何と言っても時間と費用が格段に節約できることです。加えて、インターネットに接続したパソコンがあればいつでもどこでも繰り返し学習が可能であり、研修会などに出席が難しい多忙な薬剤師にはうってつけのシステムです。医療教育研究所では受講者の集中力持続のために、1講座は講義25分と確認テスト5分の計30分で構成しており、わずかな空き時間でも職場や自宅で効率良く学習できます。また、講師の映像を動画で見ることができるので直接講義を受けているような臨場感がある、と受講者から支持を得ています。

会員薬剤師が選択する講座は、知識と経験、関心のある分野、所属別(病院・保険薬局・ドラッグストア)、処方せん発行元医療機関の患者層などにより異なりますが、それに応えるために多様な分野で基礎から応用までの幅広い内容を網羅して講座を制作しています。現在、病態生理シリーズ、疾病と薬物治療、臨床検査、今日のOTC薬、コミュニケーション、

薬局実務、薬物動態、漢方・生薬、在宅医療など27分野、約1,000講座をラインナップして業界最多の講座数と単位数を誇っており、なかでも臨床系の講座が多いので好評を得ています。

また、講師は街の薬剤師さんから国際的な医学者までと多彩で層が厚く、富山薬窓会員では、④高津聖志、⑤壇原宏文、⑥羽田正人、⑥鈴木英世、⑦保坂公平、⑦小野坂敏見、⑦中島和彦、⑦沓掛隆義、⑧柚本アヤ子、⑨田代眞一、⑨白瀧義明、⑨益見厚子、⑩嶋田修治、⑩東美恵の各氏に講師をしていただいています。皆さんの中で専門領域の講義をしていただけの方は是非お知らせください。

なお、東日本大震災後いち早く災害薬剤師シリーズの講座を無料公開し、日本薬剤師会から、現地での薬剤師活動への協力支援などに対して感謝状が贈られました。

(参考) 医療教育研究所

URL : <http://www.ime.or.jp/>

小泉保先生瑞宝中綬章 受賞記念祝賀会

(㉒、S60年卒) 畑 中 朋 美

平成25年7月14日(日)、上市町のつぎ恋月にて「小泉保先生瑞宝中綬章受賞記念祝賀会」が開かれました。同門生58名が先生の叙勲をお祝いするために参集し、華やかな中にもアットホームな雰囲気の会となりました。

小泉保先生は昭和44年に富山大学薬学部薬剤学研究室教授に34歳と若くして着任され、富山医科薬科大学薬学部薬剤薬理学講座に配置換えとなった後、ご定年まで31年間の長きに渡り、富山にて教育、研究活動に従事されました。ご存知のように、先生は薬物の体内動態と薬理反応の解析に速度論的概念を逸早く導入され、その研究は国際的に高く評価されています。また、富山医科薬科大学評議員、付属図書館長、そして薬学部長を歴任さ

れ、教育・研究のみならず、大学の管理・運営に携わられた業績が評価され、今回の荣誉ある受章となったと聞いております。

同門会の宴会部長を自任しております私が、先生の叙勲に関する情報を把握したのが4月末。5月には代表を掛見先生に、副代表を片山、杉林両先生(第61回生)をお願いして、真船(第64回生)、黒田(第71回生)、稲田(第72回生)さんを巻き込んで幹事会を発足しました。その後、日時、会場の決定、案内状の送付、参加者の把握、ホテルとの打ち合わせ等、二ヶ月の間に準備を整えましたが、われら小泉同門生は古くからの電腦戦士ですので、当日まで一度も顔を合わせることなく、ネットのやり取りのみでことを成し遂げました。最も富山在住の幹事にはご苦労いただき、また各幹事の内助の功も並々ならぬものがありまして、「温泉に泊まりたい」だの、「がんばりましょう」だのと、いい加減なメールを繰り返していた私は申し訳ない限りであります。

祝賀会当日、旅館の太鼓の音に迎えられて同門生が続々と集まり始め、いよいよ祝賀会の始まりです。会場で待つ参加者の盛大なる拍手に迎えられ、先生は少し照れくさそうにしながら笑顔で奥様とご入場されました。稲田さんによる受賞の経過報告後、幹事代表の掛見先生より辛口の祝辞を頂き、同門生代表の古志さん(第64回生)の祝辞で和ませ、きれいどころの水落(前田)、井原(第83回生)さんによる花束と記念品の贈呈が続きました。話を先に済ませてからゆっくり飲みたいとの小泉先生の希望により、ここでご挨拶をいただき、理路整然として無駄がないのにユーモアがある、かつての講義を彷彿とさせるお話となりました。研究生の森野さんの音頭による乾杯後歓談となり、まずはテーブルごとに、後には入り乱れて積もる話に花が咲きました。先生の勲章と賞状も拝見させていただき、先生のテーブルは順番待ちの列ができました。その後、益見(第68回生)さん、夕

イの留学生Suwanneeに祝辞を頂き、祝電・協賛の披露と成りました。薬窓会の首都圏支部会からも祝電を頂き、中西会長はじめ皆様はこの場を借りてお礼申し上げます。杉林先生の挨拶を以て中締めと成りましたが、その後も2次会、入浴後各部屋で3次会と楽しい時間が続きました。

翌日参加者を見送った後、小泉先生宅へ幹事一同挨拶に上がりました。いろいろと思い出話をした後、先生に「次の同門会はいつにしましょう？」と尋ねたところ、「100歳の誕生日かな。」との回答をいただき、こりやまたずいぶんと先の話だなと思いつつ、どこの温泉が良いかなと考え始めた私でした。

故塚田欣司教授 (富山大学和漢薬研究所名誉教授、 東京医科歯科大学名誉教授) の思い出 (追悼文)

(◎、S56年卒) 益見厚子

昨年12月に多発性骨髄腫で亡くなられた塚田欣司教授への追悼文を書きたいと思いません。塚田先生との出会いは今から27年前ですから、話がかなり古くなりますが、当時のまだ最先端とは言えない生化学研究室を想像していただければよいかと思えます。

私が塚田欣司教授の病態生化学研究室に大学院生として東京医科歯科大学医学研究科に入所(入学)したのは1986年4月1日です。塚田研究室で肝臓を用いた生化学の研究を開始することになりました。テーマはラットの肝臓細胞の核小体の研究でした。ラットに必須アミノ酸のメチオニンだけを除いた食餌を与え続けると核小体が肥大することがわかっており、この原因を探る、という研究でした。核や核小体がどうなっているかについて、まず核および核小体タンパク質をリン酸化することにしました。初回の実験で電気泳動約110-kDaに顕著なリン酸化されたバンドが出

てきました。ここから3年間はラジオアイソトープのP³²との付き合いが続きました。そして同時に私はこの実験が大好きになりました。P³²の発するβ線など最初ほど気にならなくなっていました(もちろん遮蔽板を用いて実験していましたが)。110-kDaのリン酸化タンパク質はヌクレオリンであることがその後推定されたのでありますが、ヌクレオリンは核小体の中で発現の高いリン酸化蛋白質であり、同時に核や細胞質さらには細胞膜にも局在するというシャトルタンパク質です。また私は当時大学院生という身分でありましたが東京理科大学理学部化学科からの卒業生の卒業論文の指導もさせてもらっていました。ただこのときは私が卒業指導者としてはかなり不完全であったことは認めつつ、今となれば貴重な体験であったことを現在身にしみて感じています。教授が大学院生だった私を国際生化学会(当時のチェコスロバキアで開催された)でのポスター発表を体験させてくださったことも貴重な体験でした。

また心残りになったことがあります。私が留学中のNIHで塚田教授の恩師である早石修先生が講演にいらっしゃったとき、講演後にミキサーが開かれましたが、そのとき早石先生に“私は塚田先生の弟子です”、と言って自己紹介をする勇気がなかったことです。近くにいらっしゃったのになぜか声をかけられませんでした。塚田教授が、学生のとき早石さんと喧嘩した、とか言ってたしな一、などと余計なことを思い出したことも原因ですが。でも心の底では教授は恩師のことを深く尊敬していらっしゃいました。

私が国立感染症研究所の職員として独立したとき、別のリン酸化の研究を進めることができたのも、大学院時代の経験のおかげです。大学院4年の後半(1989年)に塚田教授がもう少し就職を決めるのを待ちなさい、と言われていたのを押し切って国立感染症研究所に就職してしまったのでありますが、10年以上経った2003年に当時すでに大学を退官となり

某食品会社の顧問になっておられた教授に再会することができました。教授はとても好意的に私と会ってくださいました。もちろんそれまでの私の論文別刷りを教授にお渡ししたのはいうまでもありません。

私は研究所からアメリカNIHに留学し分子生物学と免疫学の領域にも足を踏み入れ、いろいろな研究に携わりましたが、塚田教授に最初に教わった生化学の研究基盤はこれからも私の脳裏から決して離れないでしょう。

教授の研究室にはときどき富山大学の先輩方が訪れてこられました。それで私は大学やその他民間に勤めておられる先輩方などたくさん先輩方たちと交流を持つことができました。教授の還暦を祝う会などでも多くの富山大学の同門生が集まって来られ、教授の人柄を感じさせられました。そして学会や同窓会に参加するとき私の同級生より教授の研究室の先輩方たちの方に懐かしさや親しみを感じてしまいます。

最後に恩師の塚田教授へ、“先生、たくさんの優しさと厳しさをありがとうございました。”

塚田欣司先生の思い出

(67、S45年卒) 伊藤 要一

学生時代、親友の保坂公平氏（群馬大学名誉教授、前大学院保健学研究科教授）が塚田研の所属だった関係で塚田先生とは度々お会いする機会があり、時々飲み会にも誘われ楽しい話を聞かせて頂きました。御自宅に泊めていただいたことも良い思い出です。

卒業後は、銀座や新宿の先生行きつけの会員制クラブで何度か御馳走になりました。

東京医科歯科大学退官後に臨床医になられた時、「今日の治療薬」という本が手放せない、と語っておられた姿が目には浮かびます。

追悼文

(67、S45年卒) 林 昌美

私は富山大学の和漢研で先生が助教授として在籍された時に、同じ研究室に卒研で配属されたものです。直接の指導教官ではないにも関わらず、飲みに誘っていただいたり、卒業後も何かと気にかけていただき、大変お世話になりました。研究職の道を選んだのも先生の影響が大きいと思います。常々学生のことを気にかけておられて、冗談の合間にちょこっと漏らされる一言が本音でした。口調とは裏腹に、非常に繊細な方で、あのメガネの奥の眼がいつもキラキラしていました。

坂東生誕45周年にあたり

(68、H3年卒) 坂東 裕志

この題名を見てなんか見たことあるタイトルだなーと思った方は、遠久朶を熟読されている方と推察される。何の因果か、私が遠久朶への寄稿に関し2年連続当選してしまった次第なのである（もちろん当選ではないのだが……）。

そこで本来なら、こういったものには私の現在の本業でもあるバイオシミラーの開発についてなどを書くのが筋ではあるが、そんなものを偉そうに書いたところで大した内容にはならないので、本年もくだらない話を書こうと思う。

正直な話、昨年書いたものが残っていたので、その焼き増しであることをご了解いただきたい。

仕事柄、私は文献を読むことも多いが、読書好きでもあるため1年中活字漬けである。メールの量も年々増える一方なので、その確認と返信とで随分と時間もかかる。こういった文字を読むことにストレスのかかることもあるが、それ以上に手元に何か読むモノが無

いと不安になってしまうことから、最近私は、「文章中毒化」している感じである。

そこで最近風呂場に本を持ち込み、ゆっくりと湯に浸かるというのがマイブームである。主なものは小説であるが、政治、ビジネス、エッセイなど読みたいジャンルのものが沢山ある。もし宝くじにあたれば、あまり客の来なさそうなところに、いいコーヒーを出す喫茶店を開き、1日中読書しながら、たまに来た客の相手をするというのが私の夢である。かなわない夢であることは、もちろん承知である。

ここで少し話は変わるが、私はこの年になって未だにマンガも読んでいる。いいオッサンが何しているんだというお叱りを受けるかもしれない。しかし楽しいものは楽しいし、応用すれば業務にも役立つのである。業務中、眠たくなるようなプレゼンをされても時間の無駄だが、ちょっとしたコツひとつ、プレゼン次第で非常に相手に理解されやすくなる。伝えたいところ、大事なところをより大胆に説明。それをうまく使っているのが漫画だと思うのだ。坂東裕志はCOOL JAPANを応援します！！

そこで富山出身の私としては、ドラえもんの話をしたい。

ドラえもんといえば、富山出身の藤子不二雄の漫画である。

私より年下の人ならば、「ドラえもんの道具で一番欲しいものは？」という会話を、友達としたことがあるのではないだろうか？ 先述の「もし宝くじがあつたら」という話に近いところではある。

私としては「どこでもドア」あたりが一番欲しいところである。ある時、職場で「どこでもドア」の話をしていた時に、ある上司は「それがあつたら、すぐに出張先に行けるのに」といったが、そういった真面目な考えを持ってしまう上司に同情すら感じてしまう。私ならそんなものがあつたら会社をとっとと辞めてしまうだろう。

ところで実は、最近私はタイムマシーンに乗ったのである。

行った先はバブル時代。派手なファッションが流行り、私が一番青春を謳歌していたころ。街には流行りの曲が流れ、みんな浮かれている。

私の中学の時からの大ファンである聖子ちゃん、カラオケでハマりまくった米米CLUB、大学時代に一世風靡したプリプリが巷に流れている。あー青春、最高ナリ。隣には大学時代の彼女。

イヤちょっと待て。なんか、ちょっと違う。隣にいるのは、見慣れた嫁さんだ。歌っているのは、何だか年を取ってしまった松田聖子であり、カールスモーキー石井であり、岸谷香だ。

というか、実際はただ彼らのコンサートに今更行っただけだが、全てのコンサートが最高だった。(一昨年のお話でスママセン)

彼らはみんな私より少し年上だが、みんな輝きは失ってなかった。

私も彼らのように一所懸命に生きて、いつまでも光って見えるように頑張ろう。

ドラえもんがいなくなつて大丈夫。自分の力でやっぺいこう。

そう思ったが、やっぱり明日の仕事に行きたくない。トホホ。45歳を間近に控えて未だに会社拒否したいことが年に数回ある。

身近の机の引き出しを開けてみても、猫型ロボットは出てきそうにありません。

ねえ誰か、僕のコピーロボ出してくれませんか？ (これはドラえもんでなく、パーマン)

おっぺいの話

(㊦、H8年卒) 東 美 恵

新緑の風そよぐ2013年5月、一人の赤ちゃんが下界へ舞い降りました。名をエミリ(本名漢字)と申します。出産前後にかかるため、

毎年担当していた富山大学薬学特講の講義はお休みさせていただきました。

育休生活ってどんな毎日だと思いますか？始めは、昼までエミリと寝ころび、何にもしていないのに気がつく夕方、晩ご飯の時間だけはやってくる毎日。ダメ人間、ダメ主婦、ダメママの文字がテロップのように頭の中に流れます。これまで昼間家にいたことの無かった私にとって、生活リズムを作るのにずいぶん時間がかかりました。こんな時間のために育休を与えてくれる会社に申し訳なくなりますし、いやそれ以前に、こんなに役に立たない人間が、よくもまあ社会で仕事してこれたものだとあきれました。そのうち生活を立て直しやりかけの論文を進めるため、週に2、3日大学院に行く時間を入れ、生活リズムを作ろうと試みます。しかし朝夕の通勤ラッシュにかからないよう時間配分しても、駅では今まで気にもしなかったエレベーター探しに神経を消耗し想定以上に時間がかかります。交通弱者に階段は、行く手を遮る高い壁のように立ちふさがります。

さて、おっぱいの話。

足を踏み入れてしまった赤ちゃん&ママワールドは、初めて聞く用語で溢れています。中でも際立って強烈なのは「カンボ」です。「カンボ」とは、「完全母乳」の略で「完母」。でも完全な母を想起してしまうせいか、一言でも威力があります。健診などで「赤ちゃんの栄養は何ですか？」と聞かれると、きっぱり「カンボです」と言い放つお母さんが必ずいて、ビクッとします。でもこの一言を言うために、頑にミルクを与えず、完全に母乳しか与えないことが目的化してないかちょっと心配でそのお母さんの顔をつい見えてしまいます。私はと言え、エミリに十分な栄養がいらず成長の妨げになってはいけなから、を言い訳に、早くからミルクもあげていましたが、あれあれ、エミリは4ヶ月で自然に卒乳してしまいました。リアルに表現すれば、はや4ヶ月にしておっぱいを見てもおっぱい

と思わない赤ん坊になってしまった。おっぱいが、乳が出る所だとわからなくなり、口に近づけてみても吸って反射も示さず、スルーされる始末。まるで新宿二丁目で男性とすれ違う際に、自分が風景の一部みたいを感じる、安全だけど一抹の寂しさ、のような。これでいいのか。母親の免疫を赤ちゃんに、と理系の諸先輩方・後輩から非難轟々聞こえてきそうですが、そんなわけで、赤ん坊というのは飲んでいないとおっぱいとは何かを忘れてしまう生態だと分かった事件でした（反省を含めて）。2014年4月から仕事に復帰します。

祝・100回卒

(㊦、H25年卒) 大野 琢也

皆様こんにちは。突然ですが、ついに、私たちの卒業により第100回卒生の誕生となりました！この記念すべき年に卒業できたことを恐縮半分、喜び半分に感じます。

このような私ですが、2013年春に富山大学を卒業後、東京のCRO（開発業務受託機関）に勤めています。新しい出来事に囲まれながら、日々の業務に追われる毎日でございます。学生を終え、社会人になり感じたことは、変化による刺激の大切さです。

富山大学での研究室生活から東京でのサラリーマン生活へと、私の周りの環境は大きく変わりました。様々なバックグラウンドを持った同期や経験豊富な先輩など、私に無い価値観を持った人々と出会うことで考え方の幅を広げることができています。

また、富山大学のOBである社内先輩のお誘いにより、大阪での山金会や、東京での薬窓会首都圏支部総会に出席することができました。どちらの会におきましても100回卒生として挨拶をさせて頂き、とても緊張したのを覚えています。これらの会は若い人は余り参加されないとお伺いしていたため、不安を抱えながらの参加でした。しかし、皆様温かく

迎えて下さり、普段お話しすることのできな年代の方々と交流することができ、非常に有意義で今後のモチベーションを大きく向上させることができました。

私は、何か新しい環境に飛び込むことは、大きなエネルギーが必要なことであると感じます。しかし、その飛び込んだ先にあるものは、とても有意義なものです。入社や山金会、薬窓会においても不安はありましたが、今ではプラスの影響を大きく感じます。皆様も仕事にせよ、プライベートにせよ、何か新しいものに挑戦することをお勧め致します。私の父も定年を間近に迎えた最近、新たな趣味として家庭菜園と蕎麦打ちを始めました。休日は居間でのんびりしていた父が今は畑の草むしりやネットで蕎麦打ちについて調べ試行錯誤するなど活動的になりました。そんな父を見ていると嬉しく感じます。

遠久朶が発行される4月は年度始まりの節目の時期です。どうぞ皆様もこの機会に一步踏み出してみても如何でしょうか。できることならより難易度の高いやりごたえのある挑戦を試みてください。その先にはきっと今は得られないものがあると思います。また、若い世代の方々は是非一緒に薬窓会へ参加しましょう！ お互いの近況報告などできるだけでも楽しい会になるはずですよ。

私自身も日々挑戦を続けて参ります。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

ゴルフクラブ便り

富山薬窓会で唯一の「同好会」として、これまで40年間以上の長きにわたって活動が続いてきている「ゴルフ同好会」ですが、会員の高齢化（身体の不調によるゴルフコンペ欠席や退会者が増えるなど）を初めとして、いくつかの大きな課題を抱えながらの活動となっています。今回のクラブ便りには、従来からのコンペ結果に加えて、会の歴史を振り返

りながら、とりまく課題についてもご紹介してみようと思います。

現在のアクティブ会員は約40名ですが、いちばんの年長者が44回卒の高木良造さん（80歳）、一番若手が59回卒の村上学さん、会員の平均年齢は70歳を超えています。

思い起こせば、事務局の小生（柿崎：55回卒、68歳）が入会した頃は、50歳そこそこで、ゴルフ自体が盛んな時期でした。会員の住まいが東京を中心に埼玉、千葉、神奈川と広い地域ですので、コンペを開催するコースの予約を取るのに苦労する状況でした。

不公平にならないように、埼玉→茨城→千葉と、毎回、県を変えて開催したりもしていました。また、ときどきは1泊で出かけたりもしました。開場したばかりで人気の高かった「若洲リンクス」で開催したときなどは、ハガキで申し込んで抽選待ちでした。「たまには、名門コースでプレーしたい」という会員の要望に応じて、千葉CC、大根根CCなど、関東でも指折りの名門コースを選ぶときには、会員のいろいろな人脈をたどって予約したのも懐かしい思い出です。埼玉県方面では、荒川の河川敷コースが近くてプレーフィーも手ごろで、よく開催しました。台風の後でのコンペでは、川の氾濫でコースが水をかぶってしまい、その後の復旧工事が間に合わず、フェアウェイに砂が積もっていたりして、プレーが格段に難しくなったりもしました。

パブリックコースはメンバーコースと違って、会員でなくても予約ができるため、千葉県野田市の紫CCあやめコースなどでもよく開催しました。

二つ目の課題としては、コンペ参加者の減少傾向です。若者のゴルフ離れの傾向が続いており、若い会員が増えない状況ですので当然なのですが、昨今は20名を超えるコンペを開催できていません。

コンペの期日が近づいたらご案内(第1報)をお送りしますが、「出席」の返事が何通来るかで、事務局は胃が痛くなる時にも少なくあ

りません。また、「欠席」のご返事には多くの場合、腰痛や膝痛などのほか、どこかの不調が書かれていて、事務局としては心配しています。だいぶ前ですが、「急に検査入院しました」などということもありました。

「ちょうど当日に旅行を入れてしまいました」などという返信には、がっかりさせられるものの、深刻な心配はせずすみません。最近では、「長い距離を歩けなくなりましたのでゴルフを止めています。退会を希望します」というショッキングなお便りもありました。

最近の明るいニュースは、59年卒（71回と推定）の女性（大塚幹子さん）からの参加希望です。若手で、しかも女性、次回（85回）のコンペは、ご自身のゴルフ旅行と日程が重なってしまったということで欠席とのご返事でしたが、「期待&希望の星」（ぜひ、晴れ女であってほしい！）を待っているところです。

つぎの課題は、毎回のコンペの参加者数です。現在でも、予約時には5組（20名分）を確保するのですが、返信を待っているときは一喜一憂の日々です。無理をお願いして予約をとる場合もありますので、実際には少なくとも16人以上（4組）の参加申し込みが来るように祈っています。

同窓会のゴルフコンペは、独特のすばらしさがあります。もちろん、上手もたくさんおりますし、下手も少なくありません。しかし和気藹々、いつも楽しく開催していますので、ぜひご参加していただきたくお待ちしています。

<コンペ戦績>

第83回（2013年4月25日。晴れ。千葉県八千代GC）

今回も、名門ながら都心から近いのと、格安料金がプレーできること（伊勢谷会員のご紹介）、キャディーがついていることから、「八千代GC」でした。

事務局の毎度の心配を払拭して下さって、16名の会員のみなさんが参加してくださ

いました。

ただし、晴れ女を自認して下さっていた大澤、川村のお二人が欠席となり、布施さんにお天気を実現していただきました。

伊勢谷さん、小国さん、関さんは同好会の“花の47回組”です。毎回出席というありがたい実績に加え、いずれも名手で（現役の会社員時代に相当ゴルフ経験を積まれたと推測できます）、優勝やBG（バスグロ）をほぼ毎回のように独占なさっています。若手の奮起を期待したいところですが、この先輩たちは、「私たちは後期高齢者」と口ではおっしゃっていても、外見も若々しくて、実力でも若手を寄せつけません。

今回は腰痛症で5年間、ゴルフから遠ざかっておられた梅原さん（やはり47回）が復活参加され、ちゃんと18ホールを完走されました……順位は11位（46・59、G105）

優勝：小国益男さん（47回）（スコア：46・43、G89）

準優勝：関誠さん（47回）（スコア：42・46、G88=BG）

3位：安宅久弥さん（48回）（44・45、G89）

BB：川畑さん

BM：加藤さん

第84回（2013年10月9日。晴れ。15名。千葉県八千代GC）

またまた今回も、八千代GCで開催しました。いまや本コースは薬窓会コンペ常設コースになってしまったようですが、何ととっても格安料金（11,000円で昼食・ワンドリンクつき）の上に、手入れの行き届いたすばらしいコースです（キャディーつき）ので、会員のみなさまの満足度は非常に高いです。乗用カートがないので、歩かなくてはならないのが唯一の難点ですが、逆にいえば、よい運動になります。最寄駅からクラブバスがない問題には、近くに住んでおられる会員の方が家用車に同乗させてくださることで解決してきました。また、コースとしては距離が比較的短い

のですが、グリーンがむずかしくて、なかなかよいスコアが出ない特徴があります。名門と評されるコースにはやはりどこかに魔物が潜んでいるようです。

今回は若手が奮起し、58回の石井誠司さんが優勝しました(52・45、G97)。

また、グロス80台はおらず、90の関さん(47回!)がBGを獲得しました。

準優勝：宮澤英雄さん(50回)(スコア：52・56、G108)

3位：高木さん(スコア：44・49、G93)

BB：布施さん

BM：伊勢谷さん

(事務局：⑤、S43年卒 柿崎 直和)

100字通信

⑤、S41年卒 岩崎 孝一

昨年、6月グランfond富山という自転車のロングライドに参加した。岩瀬競輪場から五箇山までの180km八尾を抜けて競輪場へ帰る130、80、50とあり130kmに参加し何とか完走し爽快だった。

⑦、S35年卒 梅原 弘

現役を退いて15年、そして学校時代の同窓会など、多くの友人との交流も年賀状だけになっているケースが多く、消息不明のため、遺族から黄泉に入られた旨を知らされ、愕然とさせられることが多くなり、不義理を重ねている昨今です。平素より一声かけに留意したいものです。

⑧、S36年卒 川上 惇

札幌雪まつりに出かけたら、2月8日の大雪で帰京できなかつた。お陰で大倉山シャンツェを見学でき、目の回るような高さで急斜面に驚いた。一週間後にオリンピックで葛西選手が130mも飛んで銀メダル! おめでとう。

⑩、S38年卒 宮澤 英雄

卒業後50年を過ぎました。薬剤師の仕事をやめて2年になります。ゴルフ、テニス、囲碁の他に庭木の手入れなど毎日退屈することがありません。リニア新幹線に乗って、故郷の長野県飯田市に行くことを願っています。

⑪、S39年卒 古市 泰宏

4年前、文部科学省の地域活性化プロジェクト「ほくりく健康創造クラスター」の事業総括を拝命して以来、鎌倉と富山・金沢を往復する忙しい日々を過ごしましたが、石川・富山両県にまたがるこの重要なプロジェクトを、2013年3月末、無事終了することができました。北陸7大学の「知」を地域産業へ活かすという大型プロジェクトで、薬学部からは小松教授の「和漢薬の国際化」、医学部からは、高津教授を含む村口教授の「個の免疫医療」プロジェクトがあり、これら両プロジェクトを親しく支援することにより、多少なりとも、母校へ恩返しすることができたかなという思いでいます。

⑫、H9年卒 宅和 知文

先日の大雪で、久しぶりにかまくらを作りました。富山に住んでいた頃を思い出し、懐かしく感じましたが除雪がされない不便さと交通の不便さを考えると……。たま～にで良いなあと思いました(笑)。

旧職員 渡辺 和夫

お蔭様で元気です。この2月8日の大雪では千葉でも34cm積りました。富山で鍛えた雪中生活術が役立ち、久しぶりで雪国富山を懐かしみました。富大出身の皆様がそれぞれの場で花を咲かせておられ、嬉しく思っています。

⑬、S37年卒 土方 久家

東京マスタースに所属して、今シーズンのフルマラソン大会には10月27日に静岡県のし

まだ大井川マラソンにエントリー致し、男子総合順位ではタイムは5時間23分25秒で、3967位/7642人、70歳以上で61位/280人でした。18歳以上の男子100人走って52番で後期高齢者にははまらずと思っておりましたが、東京マスターズのハーフマラソンに参加したところ、全国のマスターズの75歳以上の方が7人エントリーされ、11人中9番目で全国の高齢者は元気で頑張らっしゃること、痛感いたしました。区市町村別では、横浜、川崎、三鷹、練馬区等の東京近郊の区市の男子の平均寿命は全国の上位を占めていると言われて居りただけに、今後は更に健康維持に心がけ、適度の有酸素運動を続けていきたい。

㊦、S58年卒 遠藤 義之

会社では品質管理部門で仕事を行い、休日は防災のボランティアをしています。消防署での災害発生時の支援の訓練や小中学校での心肺蘇生やAEDを教えていると防災に対する意識の高まりを感じます。

㊧、S54年卒 道見 茂樹

家庭菜園を始めて約20年。ここ数年はニンニクにはまり、毎年50個以上を味噌漬、醤油漬にして味わっています。昨年初めて栽培したのが故郷（北海道）の山わさび。鼻にツンと来る刺激がたまらず、この先しばらく続けそうです。

㊨、S44年卒 竹内美千代

昭和38年に入学した私達は、今年古希を迎えます。昨年は長野で、今年は福島で同期会を持ち、旧交を温める予定です。元気なうちに新しい思い出を出来るだけ作りたいと思います。首都圏同期の皆様、その時を楽しみに……。

平成25年度 首都圏支部活動報告

1. 定期総会
平成25年度首都圏支部定期総会
平成25年6月29日（土） 茗溪会館
2. 幹事会
第1回幹事会：
平成25年9月26日（木） 茗溪会館
第2回幹事会：
平成25年12月11日（水） 茗溪会館
第3回幹事会：
平成26年4月10日（木） エーザイ別館
3. 平成26年度薬窓会首都圏支部総会案内状送付：
平成26年2月6日発送
4. 平成25年度薬窓会本部総会・卒業謝恩会：
平成26年3月21日（金）中西・平岡
5. 平成25年度薬窓会近畿支部総会：
平成25年6月2日（日）道見
6. その他
薬多津三金会（毎月第三金曜日開催）
於：多津よし（東池袋）
五福会 5月22日（水）、11月6日（水）
於：白山富山会館

平成26年度 首都圏支部役員

- 支部長 : S48年卒 中西 憲幸
副支部長 : S46年卒 加藤 健二
 H9年卒 平岡 良隆
幹事長 : S54年卒 道見 茂樹
副幹事長 : S43年卒 柿崎 直和

平成25年度会計報告

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

I. 収入の部			単位 円
項 目	予 算	実 績	
前年度繰越金(普通預金)	5,655,295	5,655,295	
年会費	500,000	353,000	
総会参加費	500,000	489,000	
普通預金利息	1,000	862	
合 計	6,656,295	6,498,157	

II. 支出の部			単位 円
項 目	予 算	実 績	
総会費	500,000	478,940	
会合費(幹事会等)	120,000	119,343	
交際費	10,000	3,360	
事務通信費	200,000	92,455	
同好会補助費	40,000	40,000	
会報発行費	300,000	198,285	
出張費	85,000	40,000	
事務局費	20,000	13,066	
次年度繰越金(普通預金)	5,381,295	5,512,708	
合 計	6,656,295	6,498,157	

平成26年度予算(案)

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

収入の部		支出の部	
項 目	金 額	項 目	金 額
前年度繰越金(普通預金)	5,512,708	総会費	500,000
年会費	400,000	会合費	20,000
総会参加費	500,000	交際費	10,000
普通預金利息	1,000	事務通信費	100,000
		同好会補助費	40,000
		会報発行費	300,000
		出張費	55,000
		事務局費	150,000
		次年度繰越金(普通預金)	5,238,708
合 計	6,413,708		6,413,708

平成25年度 支部年会費納入者一覧

(総計 237名)

※平成25年5月から平成26年3月末までに年会費を納入された方の一覧です。

回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名
26	昭和	13	竹澤富三	45	昭和	33	橋浦十八	49	昭和	37	土方久家
28	昭和	15	岩崎光一	46	昭和	34	五十嵐俊二	49	昭和	37	三尾美和子
28	昭和	15	須田民三	46	昭和	34	尾嶋司郎	49	昭和	37	見義治子
29	昭和	16	渡會春雄	46	昭和	34	川畑耕祐	49	昭和	37	森本武男
32	昭和	19	織井文貞	46	昭和	34	齊藤諒三	50	昭和	38	秋本紀子
34	昭和	21	野村哲夫	46	昭和	34	森 哲朗	50	昭和	38	川田桂子
36	昭和	23	秋元 昂	46	昭和	34	結城澄子	50	昭和	38	木原幸弘
36	昭和	23	伊藤謙治	47	昭和	35	伊勢谷篤弘	50	昭和	38	定塚紀志子
36	昭和	23	山口輝夫	47	昭和	35	市中滋郎	50	昭和	38	高野祐子
36	昭和	23	大和宗雄	47	昭和	35	梅原 弘	50	昭和	38	武石万里子
40	昭和	28	千原秀夫	47	昭和	35	京泉清男	50	昭和	38	前田一郎
40	昭和	28	眞舩恒雄	47	昭和	35	小国益男	50	昭和	38	宮澤英雄
41	昭和	29	前川 昶	47	昭和	35	須藤昌二	50	昭和	38	脇谷紀代子
41	昭和	29	基常弘晃	47	昭和	35	関 誠	51	昭和	39	石塚典子
41	昭和	29	吉村久仁子	47	昭和	35	並木英明	51	昭和	39	加賀美壯一
42	昭和	30	久世啓吾	47	昭和	35	橋本喜信	51	昭和	39	島田庄蔵
42	昭和	30	桑野二郎	47	昭和	35	古川貞子	51	昭和	39	島田輝子
42	昭和	30	才川 勇	47	昭和	35	安川正巳	51	昭和	39	諏訪庸夫
42	昭和	30	佐藤哲男	47	昭和	35	安川椒子	51	昭和	39	塚越由美
42	昭和	30	佐藤正美	47	昭和	35	若林庸夫	51	昭和	39	那須邦久
42	昭和	30	渡邊 静	48	昭和	36	安宅久弥	51	昭和	39	古市泰宏
43	昭和	31	上野謙爾	48	昭和	36	油木劭之	51	昭和	39	古市郁子
43	昭和	31	久郷正孝	48	昭和	36	阿部喜久子	51	昭和	39	宮城征子
43	昭和	31	車田知之	48	昭和	36	川上 惇	51	昭和	39	横山春江
43	昭和	31	古徳 治	48	昭和	36	川上芳子	52	昭和	40	小野澤カツ子
43	昭和	31	細 信彦	48	昭和	36	久保一夫	52	昭和	40	是枝 潤
43	昭和	31	山岸伸郎	48	昭和	36	久保春子	52	昭和	40	水林須美子
43	昭和	31	脇田秀雄	48	昭和	36	定留温子	53	昭和	41	安西慶子
44	昭和	32	車田千秋	48	昭和	36	中島 啓	53	昭和	41	岩崎孝一
44	昭和	32	鈴木芳子	48	昭和	36	樋口明彦	53	昭和	41	坂本理英子
44	昭和	32	高木良造	48	昭和	36	船場定信	53	昭和	41	林 聰
44	昭和	32	高瀬清孝	48	昭和	36	前田伸子	53	昭和	41	曲淵徹雄
45	昭和	33	大郷利治	48	昭和	36	松繁克道	53	昭和	41	南 法夫
45	昭和	33	児玉英篤	49	昭和	37	小川信吾	53	昭和	41	村上則彦
45	昭和	33	佐藤 忠	49	昭和	37	川村博子	54	昭和	42	市川 隼
45	昭和	33	佐藤池鶴子	49	昭和	37	鈴木国男	54	昭和	42	市川春子
45	昭和	33	新森信正	49	昭和	37	林 幸子	54	昭和	42	金森朱美

回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名
54	昭和	42	庄司孝市	58	昭和	46	穂苺 茂	70	昭和	58	浦本博志
54	昭和	42	庄司幸子	58	昭和	46	村上 学	70	昭和	58	遠藤義之
54	昭和	42	長谷見蓉子	58	昭和	46	村田悦郎	70	昭和	58	大塚幹子
54	昭和	42	牧戸宏行	58	昭和	46	吉富恭助	70	昭和	58	笠原貴子
54	昭和	42	松本令子	59	昭和	47	井本直樹	70	昭和	58	茂呂今日子
54	昭和	42	山口征司	59	昭和	47	駒田由美子	70	昭和	58	山口貴史
54	昭和	42	竹内美千代	59	昭和	47	清水善行	71	昭和	59	大川恵子
55	昭和	43	石橋嘉夫	59	昭和	47	白瀧義明	71	昭和	59	小澤佐余子
55	昭和	43	井上みどり	59	昭和	47	松本茂外志	71	昭和	59	松井哲夫
55	昭和	43	太田晴美	59	昭和	47	三浦嘉統	72	昭和	60	内山 務
55	昭和	43	柿崎直和	59	昭和	47	三輪 保	72	昭和	60	畑中朋美
55	昭和	43	加藤忠昭	59	昭和	47	村上香代子	73	昭和	61	加藤秀樹
55	昭和	43	志水正明	60	昭和	48	加藤マリ子	74	昭和	62	高土居雅法
55	昭和	43	杉田惇子	60	昭和	48	田中加代子	76	平成	元	朝倉 渡
55	昭和	43	鈴木 隆	60	昭和	48	田谷榮子	76	平成	元	畠山伸二
55	昭和	43	滝沢春美	60	昭和	48	中西憲幸	77	平成	2	河南三郎
55	昭和	43	牧野由紀子	60	昭和	48	山下晴義	77	平成	2	紺谷 徹
55	昭和	43	松野 萌	61	昭和	49	清永城右	77	平成	2	山本善一
55	昭和	43	南 菖子	62	昭和	50	西山信右	78	平成	3	坂東裕志
56	昭和	44	加藤正子	62	昭和	50	萩野洋子	79	平成	4	鈴木 寧
56	昭和	44	鈴木英世	62	昭和	50	保坂久美子	79	平成	4	倪 健偉
56	昭和	44	深澤 宣	63	昭和	51	泉 真美	80	平成	5	渡邊常作
56	昭和	44	山本寿美子	63	昭和	51	萩野幸司	82	平成	7	鐺木淳平
56	昭和	44	山本 恵	64	昭和	52	坂口一夫	83	平成	8	鐺木千里
56	昭和	44	横山司甫	64	昭和	52	鈴木利之	83	平成	8	鎌倉昌宏
56	昭和	44	綿鍋維男	64	昭和	52	西山 祥	83	平成	8	東 美恵
57	昭和	45	天笠之珠子	64	昭和	52	古村真理子	84	平成	9	平岡良隆
57	昭和	45	石川ふさ子	64	昭和	52	真船英一	84	平成	9	金子卓嗣
57	昭和	45	伊藤要一	65	昭和	53	井上祐司	84	平成	9	膝附由香
57	昭和	45	関真知子	66	昭和	54	大西弘章	84	平成	9	木村 徹
57	昭和	45	中島和彦	66	昭和	54	加藤浩嗣	84	平成	9	宅和知文
57	昭和	45	服部 仁	66	昭和	54	金子美代子	85	平成	10	川邊香代
57	昭和	45	林 昌美	66	昭和	54	川崎英之	85	平成	10	高瀬明子
57	昭和	45	藤村元成	66	昭和	54	草柳淳子	86	平成	11	鶴飼政志
57	昭和	45	保坂公平	66	昭和	54	原 信行	86	平成	11	鈴木智之
57	昭和	45	本田伊都子	66	昭和	54	真船恭子	89	平成	14	伏木洋司
57	昭和	45	真野由比子	66	昭和	54	道見茂樹	90	平成	15	上野陽子
57	昭和	45	松林久一	66	昭和	54	道見優子	93	平成	18	齋藤智之
58	昭和	46	石井誠司	68	昭和	56	大野伸子	99	平成	24	五月女達也
58	昭和	46	上田宗央	68	昭和	56	益見厚子	100	平成	25	大野琢也
58	昭和	46	加藤健二	69	昭和	57	小林眞弓	旧職員			渡辺和夫
58	昭和	46	末木一夫	69	昭和	57	竹内 誠	旧職員			中込和哉

事務局移管のお知らせ

これまでアサヒ興業(株)宇田川さんに事務局をお願いしていましたが、昨年10月をもって退職されたため、一時的に幹事長宅を事務局として活動してまいりました。

また、この1年は支部経費の節約のために、総会案内や遠久朶の発送を役員+有志の方々で行ってきましたが、今後の活動の継続性を考えると、様々な事務作業を全て自らの手で行っていくことは難しいとの結論に至りました。そこで新たに事務局機能を委託すべく検討し、実績・費用等の面から専門業者である株式会社 同窓会事務局へお願いすることといたしましたので、ご報告いたします。

●新事務局：株式会社 同窓会事務局 <http://www.egaomax.com/>

〒121-0831 東京都足立区舎人3-11-26 EPS

TEL：0120-10-9899 内線18番（首都圏支部専用ダイヤル）平日10：00～17：00

FAX：0120-10-9184

●委託業務：

1. 会員名簿住所管理
2. 年会費入金管理
3. 遠久朶発送業務
4. 支部総会出欠連絡管理

薬多津三金会 今年の開催日

5月16日（金）、6月20日（金）、7月18日（金）、8月未定、

9月19日（金）、10月17日（金）、11月21日（金）、12月19日（金）

毎月欠かさず第3金曜日午後6時30分から牛タンを食べながら呑んでいます。

— 首都圏支部年会費振込みのお願い —

支部長挨拶にもあるように、昨年より年会費を1,000円以上としたことにより、一定の効果が上がりました。この趣旨を汲んでいただき、首都圏支部年会費の振込みをお願いいたします。

なお、今年から新たに事務局業務の一部を㈱同窓会事務局へ依頼することにしました。これに伴い、これまで年会費は郵便局からの振込みだったのが、コンビニ等からでも可能となり、用紙には振込手数料を含めた金額が印刷してあります。但し、この用紙を用いた場合は、振込金額の変更はできないため、別途支部活動への寄付金用の振込用紙を同封してありますので、首都圏支部活動費にカンパ頂ける方は、こちらの振込用紙を用いて、振込をお願いいたします。

当会は他に収入がなく、皆様一人一人の会費により会を運営しなければならないことを、是非ご理解賜りたいと存じます。なお、会費を振り込んでいただいた方は、会報「首都圏遠久朶」にお名前を掲載いたします。よろしくお願い申し上げます。

— 編集後記 —

昨年から今年にかけて、事務局と総会会場の変更が続き、役員一同大変な思いをしましたが、何とかここまでたどり着いた感じがします。

資産減少対策として、年会費を1,000円以上としたことにより、平成23年は年会費納入額28.8万円（納入者数：288名）だったのが、平成24年度32.7万円（納入者数：278名）、平成25年度35.2万円（納入者数：237名）と、その効果ははっきり出ています。納入者数が減少していることは心配の種ですが。

昨年は記念すべき100回目の卒業生を迎えることができ、今年からは101回いよいよ2世紀目に突入することになりました。ここまでお金の話ばかりしてきましたけど、“継続は力なり”ですが、先立つものがなければうまく回りませんので、若い世代に首都圏支部経営をきちんと引き渡すために、役員一同これからも努力を続けていく所存です。

若い会員の支部総会や三金会への出席が多くなってきましたので、これからも遠慮せず参加してください。

最後になりましたが、皆様の定期総会へのご出席をよろしくお願いいたします。

（幹事長 ㊦、S54年卒 道見 茂樹）

事務局等連絡先

富山薬窓会首都圏支部事務局

(株)同窓会事務局：info@egaomax.com

富山薬窓会首都圏支部幹事長

道見：toyamayakugakubu@yahoo.co.jp



平成25年度薬窓会首都圏支部総会（平成25年6月29日、於 茗溪会館）